

会報

No. 114

平成31 (2019) . 3 . 1

「地震と図書館と利用者」と

川西市立中央図書館 館長 村山尚子

開館から27年、川西市立中央図書館は2度の大地震を経験しました。1度目は、県内で甚大な被害を出した1995年の阪神・淡路大震災。2度目は昨年の大阪府北部地震。当市は大阪府北部に隣接しているため、被害が及びました。

1. 川西市立中央図書館の利用状況

川西市の人口は155,500人。図書館は1館ですが、9つの公民館図書室や学校との連携強化に努めています。

当館の特徴として、①駅前商業ビル内に位置するため、来館者数（1日1,339人、1時間あたり167人）が多い。一方、貸出者数は来館者数の7割程度で、館内のみでの利用が目立つ。②隣接する大阪府池田市や豊能町と広域利用提携していることが挙げられます。

2. 地震当日から工事終了まで

私自身は自宅から3時間半、歩いて出勤。状況把握や指示をするにも電話が通じず、もどかしい思いをしました。開館時に出勤できたのは正職員2名と臨時職員数名のみ。到着後、資料や書架にも大した影響はなく、平時と変わらない利用者の姿に驚きました。その後、吹き抜け天井部分の破損を確認し、午後から天井部分（児童コーナー）を立入禁止にしました。



改修工事は2か月に亘り、全館閉館2回（計13日間）と一部閉館が交互というスケジュールでした。工事期間中、閉館し全業務停止の選択も可能でしたが、できればサービス提供をと考え、酷暑の中、全館閉館期間も入口で返却と予約本の受け渡し等を行いました。一部閉館期

間は、立入禁止の児童コーナーの代わりに、急遽、別室に児童書を運搬し、「ミニみに児童コーナー」を設営しました。工事予定や利用制限についての丁寧な説明と「現状で可能な限りのサービス提供」を職員全員が心がけ、大きなクレームにつながることなく、8月22日、無事に全館開館に至りました。

3. 反省と課題

①広範囲に及ぶ多数の人たちへの周知の難しさ

閉館等の周知方法として、当然、館や市のHP・SNS、市広報誌への掲載、各所での掲示、新聞にも掲載されました。しかし、広域利用者にとって、市広報誌や地方記事が異なる新聞掲載は無意味です。また、最新情報はやはりネットからになりますが、パソコンやスマホを利用しない層には有効ではありません。手を尽くしていても、知らずに来館する人は意外に多く、入口や電話で説明に追われました。有効な手段を模索しています。

②災害時の職員体制と行動の見直し

地震当日、司令塔となる職員（館長、館長補佐）の到着が遅れ、連絡も取れませんでした。当館は圧倒的に臨時職員等の割合が高く、正職員は4名のみ。同様の状況は図書館では珍しくありませんが、本庁と離れた施設で正職員不在の場合は何を基準にどうするのか。マニュアルの見直し、意識向上のための定期的な研修が必要だと考えています。

4. 最後に

図書館が一番活気づく夏休みと工事期間が重なったこともあり、来館者数と貸出者数は前年の同月より減少しました。しかし、1日あたりの来館者数（H29は1472人⇒H30は1637人）、貸出者数（H29は742人⇒H30は731人）は、なぜか同水準を維持していました。地震を機に図書館から足が遠のいた人は少なく、“どんな時でも図書館を必要とする人”がいることを再認識しました。

昨今、新館建設等の機会でもなければ、飛躍的な利用増加は難しくなっていますが、気軽に立ち寄り、何か（知識や人との出会い）を得られる、安全で魅力的な施設づくりを目標に、「図書館に行かないと、何となく寂しい・・・」という人を増やしていければと思っています。

大切な本との出会いを願って

つじもと みほ
三木市立青山図書館 辻本 美保

私が司書を志したのは高校生の時。図書室は私の唯一の居場所でした。司書の先生は構うでも放置するわけでもなく、ただいつも書架から私が好みそうな本を手渡してくれました。やがて私は、読書を通してたくさんの人間と出会い、世界は自分が思っているよりずっと広いということを知りました。

その時に抱いた「本には人の人生を変える力がある」という感動と確信を胸に司書となり、三木市の図書館に勤務して12年目を迎えようとしています。昨年の4月には、中央図書館から青山図書館へ初めての異動を経験しました。事務室で業務を行うことが増えていた中央図書館から一転して、青山図書館では一日中カウンターで利用者と向き合う日々を過ごしています。失敗と反省の毎日ではありますが、本を媒介に利用者と真っ直ぐに向き合える機会が再び巡ってきたことで、改めて初心にかえることができたと感じています。かつて私に司書の先生がそうしてくれたように、誰かにそっと大切な一冊を手渡す存在になればと願いながら、これからもカウンターに立ち続けたいと思います。

ふれあいの拠点を目指して

はらやま としみつ
姫路市立図書館 家島分館 原山 敏光

家島地域は、姫路市「姫路港」の南西18kmの播磨灘の中央部に点在する四十余島で構成される風光明媚な島嶼地域であります。

当分館は、平成18年3月27日に姫路市と周辺4町が合併して、新姫路市となり、旧4町の町立図書館及び公民館図書室が市立城内図書館の新たな分館として再スタートいたしました。

当分館では、幼児用絵本の人気が高いので、積極的に蔵書数を増やすよう努力しています。また、離島という特性を持った地域でありますので「島と海」に関する蔵書も拡充していけるよう取り組んでいます。

これからも生涯学習の拠点施設として、また、島の特色を持った図書館として、島民すべての方々に愛される図書館を目指して職員一同、日々研鑽を積み図書館業務に取り組んでいきたいと思っております。



改めて感じること

もりわき かな
豊岡市立図書館 但東分館 森脇 加奈

豊岡市立図書館本館から但東分館に異動になりもうすぐ一年が経過します。

同市内の図書館でも、市の東方に位置する当館では、利用者の一人一人とじっくり交流する機会が多く、おすすめの本を尋ねられたり、みなさんが図書館を信頼してくださっていると強く感じます。図書館員には本の知識だけでなく、人と接する力も必要と気付かされ、勉強する毎日です。また、当館では、自然豊かな環境を生かし、「タネの図書館」と題したコーナーを設けています。植物の種を貸し出し、家で育ててもらい、返却は、その植物から採集した種を、という形で図書館と利用者との新たな交流を図っています。過日、子どもたちが自分で育てていたフウセンカズラの種を「タネの図書館」に返却してくれました。種の種類も図書館の蔵書同様に充実させながら、図書館は本だけでなく、あらゆるものを介して地域の方とつながる可能性を秘めていると改めて感じ、日々業務に取り組んでいます。

図書館と歩む

まつもと かずみ
丹波市立山南図書館 松本 和美

実家の近くに大きな図書館がありました。近くといっても子供の足で30分はかかります。小学生の頃、学校から帰ると毎日図書館に通いました。「子供の館」は4時に閉館するので、借りて帰った本を暗くなるのも気づかずに夢中で読んでいたことを思い出します。「注文の多い料理店」を読んで日本の人が書いた本だという事に驚いたのはこの頃です。中学生になると「大人の館」に入館できます。大学生や大人の方に混じって本を選んだり、勉強をしたり。パールバックの「大地」やヘッセの「デミアン」ジイドの「狭き門」など、多感な年頃を何冊もの本で豊かに過ごせたことは、私の大切な宝になっています。

そして、時を経て、図書館員として20数年働かせて頂いていることに深く感謝しています。私の大好きだった図書館は、今でも街の図書館として沢山の方に利用されています。私たちが働いている図書館もまた、その人の心の糧となる一冊の本に巡り合う手助けが出来る図書館でありたいと願っています。

テーマ：谷口忠大先生のビブリオバトル全国
行脚 in 兵庫ことば蔵&中学生大会
開催日：平成30年（2018）10月28日
会場：伊丹市立図書館ことば蔵 1階交流
フロア
講師：谷口 忠大 氏
（立命館大学情報理工学部教授／ビ
ブリオバトル発案者）

伊丹市立図書館は、「公園のような図書館」をコンセプトに平成24年7月に現在の場所に移転しました。これまで2カ月に1度ビブリオバトルを開催してきましたが、その参加者や観覧者が減少傾向にありました。そこで、ビブリオバトルの魅力や面白さを市民の方々に再度伝えるための契機にしたいと、本事業を計画しました。

第一部では、ビブリオバトルの発案者である谷口忠大先生（たにちゅう一先生）を講師にお迎えし、その魅力や楽しみ方についてご講演いただきました。

その後は参加者によるワークショップとして、グループに分かれてビブリオバトル体験を行いました。初めて会う方々であっても、いざビブリオバトルがスタートすればみんな相手に興味津々で、グループワーク終了時にはどのグループも和気あいあいと打ち解けていました。

また、第二部では市内中学校の代表者による中学生大会を開催しました。第一部のワークショップから引き続き観戦して下さった参加者や、引率の先生も加わり、総勢50名程度が観戦。白熱したバトルが繰り広げられました。

昨今はSNSが普及し、人と人とのつながり方は多様化しています。しかしながら、実際に人が集まり、本を通して行うコミュニケーションには、その場でしか体験できない良さがあります。参加者からは、「知らない本だったけど読んでみたくなった」など、嬉しい声を多数いただきました。これからも、本を通じて多くの出会いや交流が生まれる場所を目指して、伊丹市立図書館は歩み続けていきます。



テーマ：「台風その他自然災害時における図書館のあり方
～事例をもとに考える災害発生時の緊急対応～」
開催日：平成30年12月19日（水）
14時30分～17時00分
会場：尼崎市立中央図書館

今回の研究集会は意見交換会という形式で、北は朝来市、西は赤穂市と幅広い地域の館にご参加いただきました。

研修にご参加いただいた館と大阪府内の市立図書館からの事前の聞き取り等を参考にしました。直近の9月に台風の被害があったこともあり、台風時の対応を主として議論しました。開館後に警報が発令された場合に臨時休館するか否かといった点や委託業者にどの程度業務の遂行を求めるのかといった点など、今回の台風21号で浮き彫りになった様々な課題に関する意見がありました。臨時休館を実施した図書館においても、内規等の定めに基づくものではなく、現場や教育委員会管理部門との協議に基づくものが多く、素早い判断が困難であるということ、既に来館してしまった方に危険な状況下では帰宅を促せない以上、一律の基準を設けるのは非常に難しいとの結論になりました。その一方で、想定をはるかに超える規模の台風が襲来することを考えると、不要不急の外出を控えていただくためにも警報発令時は臨時休館すべきとの意見が出るなど、改めて難しい問題だと認識しました。

各市によって防災無線の活用やその他社会教育施設と足並みをそろえた臨時休館など、参考になる事例が多くありました。また、災害時の図書館での対応をまとめた内規を作成している館は少数であるなどから、備えを行う必要性をひしひしと感じました。

最後は県立図書館利用サービス課長より研修の総評をいただき、閉会となりました。30年度は大阪北部地震や大型台風の直撃など災害が多い一年でしたが、今回経験したことを生かし、今後起こりうる災害に備える必要があると感じました。

兵庫県内図書館の動き 平成30(2018)1月～12月

- ・ 兵庫県立図書館
リニューアルオープン (7/1)
 - ・ 神戸市立図書館
文科省地区別研修の開催 (2/6～9)
電子図書の貸出サービスの試行実施 (6/22)
 - ・ 西宮市立中央図書館
西宮市立図書館開館90周年記念行事「高殿円さん講演会～わたしと西宮、夢は地元で歴史ドラマ」
(12/2)
 - ・ 西宮市立鳴尾図書館
鳴尾図書館開館20周年アーサー・ビナード読み聞かせと講演会 (9/23)
 - ・ 芦屋市立図書館
図書館システムの更新、ホームページのリニューアル
(1/5)
 - ・ 伊丹市立図書館
ことば蔵開館6周年記念事業「みんなの寺子屋」
(7/1)
 - ・ 川西市立中央図書館
国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始
(7/1) / 1市2町(川西市、猪名川町、豊能町)図書館読書キャンペーン (11/8～12/16)
 - ・ 三田市立図書館
マイナンバーカード提示により貸出冊数を6冊から10冊へ増刷の運用開始 (8/1)
 - ・ あかし市民図書館
2017/1/27の新館開館からの貸出冊数200万冊突破の記念式典 (4/21) / ブックセカンド事業を開始 (5/9)
/ 移動図書館車を刷新・小型車を1台追加し、新体制で運用開始 巡回場所も約2倍に増加 (7/1) / 小・中学生向けパスファインダーの展示・電子図書館へ公開開始 (8/8) / 館内での図書用カートの貸出開始 (11/1)
 - ・ 明石市立西部図書館
図書館外の返却ポストを1ヵ所追加設置 (1/16) / 移動図書館車を刷新・小型車を1台追加し、新体制で運用開始 巡回場所も約2倍に増加 (7/1) / 小・中学生向けパスファインダーの展示・電子図書館へ公開開始 (8/8) / 館内での図書用カートの貸出開始 (11/1)
 - ・ 加古川市立中央図書館
従来の電子図書館(レイアウト版)にテキスト版サイトを追加開設 (4/1)
 - ・ 加西市立図書館
図書消毒機設置 (8/27)
 - ・ 加東市立図書館
コンピュータシステムの更新 (3/1～3/6)
 - ・ 加東市滝野図書館
空調設備改修工事 (2/1～2/28)
 - ・ 加東市東条図書館
空調設備改修工事 (2/1～2/28) / 施設の電源設備改修工事 (12/10～12/12)
 - ・ 姫路市立図書館
飾磨分館、網干分館、広畑分館、安富分館が指定管理に移行 (4/1) / 東光分館改修工事完了により再オープン (4/20) / 家島群島開発総合センター内に坊勢図書コーナーを設置 (7/23)
 - ・ たつの市立図書館
たつの市子どもの読書活動推進計画策定 (1/1) / 電子図書館サービスを開始(宍粟市、上郡町、佐用町と構成する「播磨科学公園都市圏域定住自立圏電子図書館」として開設) (1/13)
 - ・ 赤穂市立図書館
電子図書館 電子書籍の貸出・予約点数の変更(一人5点から10点に変更) (5/1)
 - ・ 上郡町立図書館
播磨科学公園都市圏域定住自立圏連携事業電子図書館の開館 (1/13) / 電子図書館閲覧のためのタブレット導入 (2/14) / 子ども読書の日パンフレット・読書手帳配布 (4/23)
 - ・ 佐用町立図書館
播磨科学公園都市圏域定住自立圏電子図書館事業開始 (1/13) / 佐用町子ども読書活動推進計画策定 (3月)
 - ・ 豊岡市立図書館
談話スペース「いこいの間」「いこいの庭」を整備、Wi-Fiサービス開始 (7/14)
 - ・ 丹波市立中央図書館
3市(丹波市・朝来市・福知山市)連携事務局会議の図書館連携部会において、相互利用や企画展合同開催などについて協議開始 (8/28)
 - ・ 洲本市立洲本図書館
洲本市立洲本図書館開館20周年記念イベント (9/29) / 洲本市立洲本図書館開館20周年記念誌発行 (9月)
 - ・ 淡路市立津名図書館
(仮称)新津名図書館施設市民検討会設置 (2/14) / 開館30周年記念事業(開館時の写真等展示) (11/3)
- ※淡路市立北淡公民館図書室
公民館移転に伴い、新築移転 (10/1)
- ※は兵庫県図書館協会未加盟
内容については、「図書館年鑑2019年」編集に係る各加盟館からの情報提供を一部抜粋しました。

| |
|--|
| <p>兵庫県図書館協会会報 No.114 平成31(2019)年3月1日 発行 編集・発行：兵庫県図書館協会 〒673-8533 明石市明石公園1-27 兵庫県立図書館内 Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500 E-mail:hyoto_hyotokyo@library.pref.hyogo.lg.jp</p> |
|--|